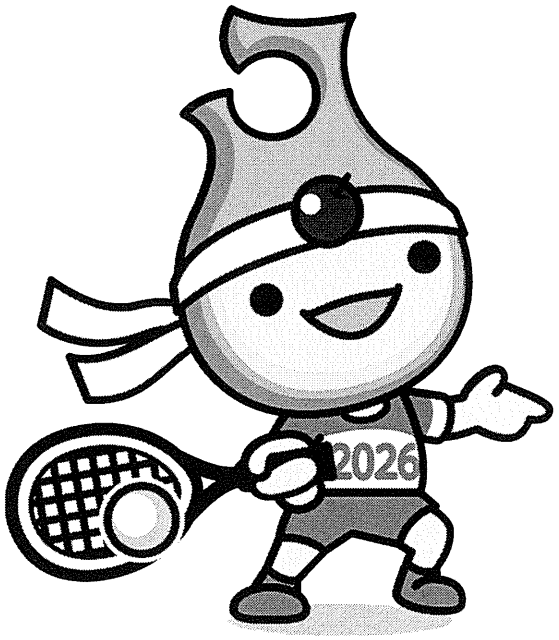
③

《青の煌めきあおもり国スポ》

審判員マニュアル

審判実施要領編　ver. 1.3



アップリート君

■期　　日　：　令和８年１０月１６日（金）～１９日（月）

■会　　場　：　青森市・新青森県総合運動公園テニスコート

青森県ソフトテニス連盟

審判員マニュアル　目次

「審判実施要領編」

		頁
I	審判実施要領	1
1	審判員の責任	1
2	アンパイアの心得	1
3	審判員留意事項	1～9
II	競技規則(抜粋)の解説	9
1	プレーヤーの心得	
2	マッチ	
3	サービス・レシーブ及びサイドのチェンジ	
4	サービスの順序又はサイドの誤り	
5	サービス	10
6	レシーブ	11
7	判定	
8	タイム	12
9	禁止事項	
10	異議の申立て等の禁止	
11	警告	
12	失格	13
13	ヒートルール	
14	マッチの中止と再開	
15	退場又は注意の喚起	14
	【副審のサイン】	15
	質問に対する対応手順フローチャート	16
	審判員指摘事項	17

Ⅰ. 審判実施要領

1　審判員の責任

どのスポーツ競技においても審判員の占める役割はまことに大きく、ソフトテニス競技も例外ではない。審判員、中でもアンパイアの審判技術の巧拙が、プレーヤーの心理に作用し、競技会運営や観衆の印象に大きな影響を与えるものであるか、経験のある人なら誰でもよく知っているところである。したがって、アンパイアとなる人は、この重責を果たすために、常にソフトテニスルールブックの理解を深めるとともに、審判技術の向上と精神面での「平常心」「集中力」「冷静さ」を保てるように努める必要がある。

2　アンパイアの心得

アンパイアは、プレーヤーに信頼されるとともに、観衆に好感をもたれることも必要である。そのためには次のことを一般的事項として心得ておかねばならない。

（1）　競技会規則及び審判規則をよく理解して、その運用を適切に行うこと。

（2）　服装は、大会主催者・主管団体が示す服装とし、公認審判員徽章を左胸に付けること。

（3）　マッチのアンパイアになったときは、次の事項を守ること。

ア　プレーヤーより先に準備を整えて、プレーヤーの出場を促すこと。
イ　言動が適切であるように努めること。
ウ　マッチが円滑で明朗に進行するように努めること。
エ　判定は公正に行うとともに、時機を失しないようにすること。
オ　コールは、審判規則第10条の規定に基づき、大きな声で行うこと。
カ　サインは、審判規則第11条の規定に基づき、明確に行うこと。
キ　当該マッチのアンパイア同士の連絡を密にすること。
ク　他のアンパイアの判定区分については、その権限を侵さないこと。
ケ　マッチ中は、常にボール・プレーヤーを見ていること。

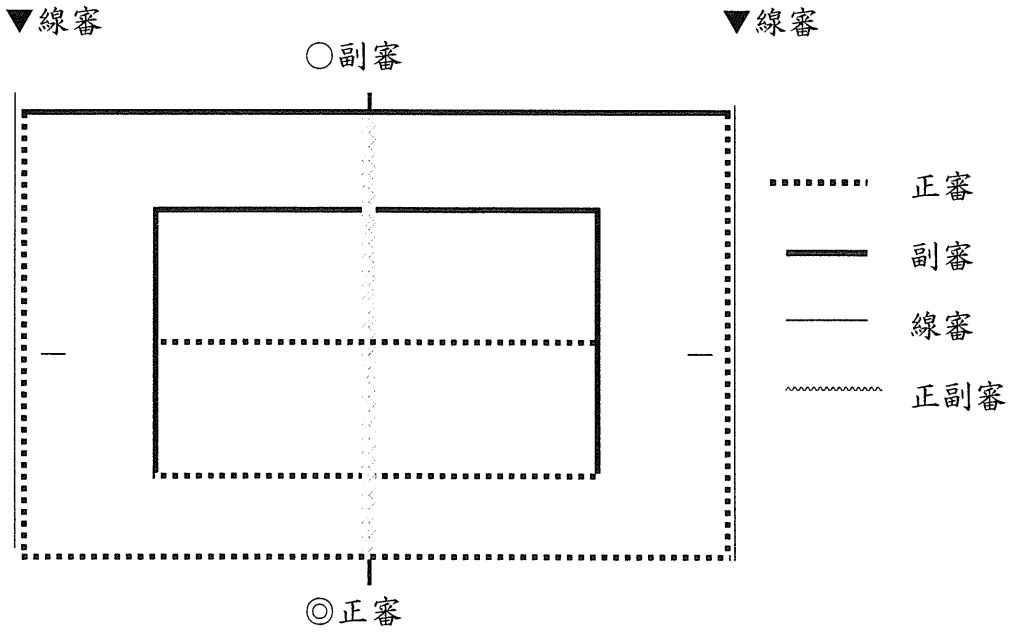
3　審判員留意事項

（1）審判団

審判団は、レフェリーおよびアンパイア、コート主任で構成する。

（2）判定区分

アンパイアの判定区分は、下図の通りとする。
線審をつけない場合は、その判定区分は正審が判定する。**アンパイアが自分の判定区分以外の判定をするとトラブルが生じやすいので、判定区分を厳しく守ること。**



（3）正　　審

1）マッチ開始前にネット（サイドラインの上で、1.07m）、ライン、コート周辺の状況及び審判台の位置（ネットポストから60cm離す）が適当であるかを確認する。

2）ユニホーム、ゼッケン等について大会要項に沿ったものであるか確認し疑義があれば競技委員長と連絡を取る。

3）マッチ中は審判台の上でマッチの進行を担当し、定められた判定区分の正否を判定するとともに、**他のアンパイアの判定区分については、他のアンパイアのサインおよびコールを確認した後**、明瞭にコールしスコアシートに記入する。
（審判台においては足を組んだり、スコアシートを記入するために審判台に設置されているテーブル板にあご肘をついたりしない。また、サングラスはプレーヤーの信頼を損ねることが考えられるので極力使用しないのが望ましい。）

4）スコアボードの表示が正しいかどうか確認しながら進行する。

5）スコアシートは落ち着いて正確に記入する。

6）カウントの**コールの時機は**１つのポイントが終わり、**サーバーが次のサービスの用意ができレシーバー二人の用意ができたことを確認した時で、早すぎても遅すぎてもいけない。**（このタイミングの良否がゲームの流れに大きく影響することがある。）

7）正しいコールをする。もし、**コールを間違えた場合は、「コレクション」とコール**して正しいコールをする。

8）サービスが行われようとしているときは、サービスするプレーヤーの**足元に注意する。**（フットフォールト）

9）**ネットにかかったフォールトは、必ず「フォールト」とコールする。**コールがないと次の動作に移れない。第２サービスが成立しない。

10）自分の判定区分のボールがアウトかインか**確信が持てない場合は、落下点の痕跡を確かめてから判定することができる。**この場合、正審は副審に依頼してよい。**（副審が判定に迷う場合は、審判台から降りて痕跡を確かめて判断してよい。）**

11）他のアンパイアの判定区分の失ポイントとなることでコールを要するものについては、担当アンパイアがサインしたものを、正審は正審のコールとしてコールする。

12）**タイムの許可を得ないでタイムをとってプレーを連続的に行わなかったり、マッチの進行に支障を与える形でパートナーとの打ち合わせをしたりするプレーヤーには「レッツプレー」のコールにより注意する。それでもプレーに入らないときは、イエローカードを与えることになる。**ほどけていない靴ひもを解き、結びなおす行為等

13）プレーヤーに突発的な**身体上の支障が生じ**、プレーの継続ができなくなった場合、タイムの要求は同一人が1回につき5分以内とし、同一マッチ2回までは認める。以後の要求又は**許容時間内に回復できなかった場合は棄権とし、相手方の勝ちを宣告する。**（タイムズアップゲームセット）

14）プレーヤーに対する監督からの**助言は、サイドのチェンジ（ファイナルゲーム中を除く）の場合及びファイナルゲームに入る場合にのみ認められる。45秒でコート主任の手の合図またはコール後「レッツプレー」とコールする。**これ以外の助言に対してはイエローカードを与える。

15）観衆または応援者などが騒がしくてマッチの進行に支障がある場合は、**直接注意を喚起し**必要がある場合は、大会委員長に連絡し対処を依頼する。

16）プレーヤーが使用しているラケットのストリングの張り方が特殊で、ボールに特別の影響を与えていると見受けられる場合は、正審がレフェリーに判断を要請する。(振動止め等)

17）マッチ終了後の「挨拶」が終わり勝者チームの監督に勝者サインをもらい、プレーヤーが解散して対戦は完全に終了したものとする。

（4） 副　審

1）マッチの開始前、コートの状況、ボールが選択されたものであるか、そのバウンドが適切であるかどうかを確認する。
（ボールのバウンドは、マッチを行うコートにおいて1.50mの高さから故意に力を加えることなく落下させた場合、コート面で弾んだ後の最高到達点がボールの下端で70cm～80cmまでの範囲となるように調節する。）

2）マッチの進行中は常にボールの行方とプレーヤーに注意を払い、動作を機敏にする。

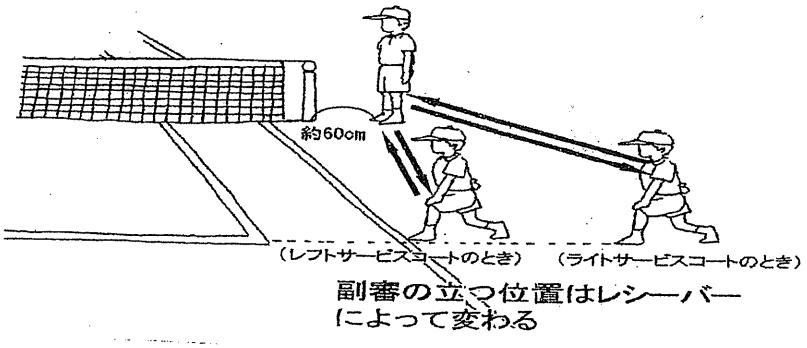
3）正審のコールが正しいかどうかに注意を払い、誤っていたらタイムを取って訂正を促す。

4）定められた判定区分のイン、フォールト、アウトの判定をするとともに、正審を補佐する。

5）常に正審と連携を密にし、プレーに支障となることが発生したら、正審にタイムを求める。必要に応じ、サイドのチェンジのときに正審と打ち合わせや、アイコンタクトを図る。

6）サービスの判定の位置は、自分に近いサービスコートの場合はレシーブするプレーヤーの邪魔にならないようにサービスラインの仮想延長線上でサイドラインからやや遠目（約２ｍ）で判定を行う。反対側遠い方のサービスコートの場合は、サービスラインの仮想延長線上でサイドラインのより近いところで判定するように心がける。

7）サービスの判定する位置についたら、気を付けの姿勢で、正審のコールで構えの姿勢に入る。



8）サービスの判定後は、速やかにネットポスト後方（約６０ｃｍ離れた定位置）に移動しラリーを見守る。（図参照）

9）イン、フォールト、アウト以外のその他の判定区分（レット、チップ、ネットタッチ等）に対してはサインと共にコールを行う。

10）その他の判定区分で、失ポイントに該当する行為の場合は、片手で該当行為を行ったプレーヤーを指差してコールにより指摘する。（該当するコート側の手で行う。）

11）自分の足元の判定には特に注意すること。（ネット近くのライン際に落ちたボレー等）

12）アウトの場合は、ボールの落下点に正対して注目し、掌を内側に向け、指を伸ばしコート

に対して外側の手を上にまっすぐ挙げる。（この場合、掌を内側に向ける。）

13）ベースライン上の判定はしないが、落下点は確認しておくこと。トラブルが起こった場合は、正審の指示を受けて落下点に行って確認し、その場でサインはせず、審判台の正審のところ行き報告する。

14）フォールトでネットにかかったものはサインをしない。インに対しては、原則としてサインをしない。

15）サイドのチェンジや次のポイントまでの待機のときは、足を揃え、手を後ろや前で組んだりせず、体側に付け指先は自然な形で伸ばした姿勢を取る。（休めの姿勢にならないようにする。）
サイドのチェンジの待機の位置は、ネットポストの左脇とする。

16）副審のサイン（後掲・図参照）は2～3秒間程度静止の姿勢ですぐに下ろさないようにする。

（5）線　審

1）自分の判定区分の判定については正確を期するとともに、他のことについては正審及び副審と連携を密にする。

2）待機時の姿勢は、椅子に座って背筋を伸ばし、両膝の上に両手を軽く乗せるようにする。アウトの判定は片手（コートに対して外側の手）の肘を伸ばし真上に挙げる。手のひらは内側に向ける。

3）フットフォールト等については外側の手を伸ばし、指を指してコールにより指摘する。

4）サインは副審のサインを準用する。

5）マッチ開始、終了の挨拶の際は、正審、副審とともに整列する。

（6）判定について

1）判定区分が重なる場合
区画線による判定区分が同じ場合は、副審または線審が正審に判定の資料を提供する。
この場合、正審は副審または線審の判断を尊重して判定する。

2）副審が間違って判定した場合
ア　副審が、間違った判定区分を間違って判定（二重の間違い）した場合
正審は「タイム」とコールし、副審を呼んで注意し、「コレクション」とコールする。
両ペアを集めて説明した後、「ノータイム」とコールして、正しい判定（レット、ノーカウントあるいは、判定の変更をする場合はイン）をコールし、プレーを再開する。
イ　副審の判定区分で、副審の判定が間違っている場合
正審は副審のサインどおりコールしてから「タイム」をかけて確認する。
以降アと同様の手順で行う。
例）副審が副審側のサイドラインのインのボールをアウトのサインを出した。

3）誤った判定をした場合
誤った判定をしてしまい、今のは間違っていたが「まあいいや」と思ってプレーを続行しているときがあるが、そのポイントは勇気を持って必ずプレーを止めること。アンパイアの1人が誤ってプレーを中止するサインをした場合も、必ずプレーを止めること。

（7）サイン

アンパイアは、プレー中「イン」のボールに対しては原則としてサインをしない。ただし、「イン」のサインを行う場合は、プレー終了後プレーヤー及び観客が判定に迷うとおもわれる時に、「イン」であることを知らせるために、掌を下にして片手を前方斜め下に差し伸べることが望ましい。【審判規則第11条解説22の２】

（8）アンパイアのコール

1）判定及びカウントのコールは以下の通りとする。
正確にかつ明瞭に大きな声で言う。

2）ポイント及びゲームのカウントは、正審がサービス側からスコアをコールする。

3）タイムの後プレーを再開する場合、正審は必ず「ノータイム」とコールする。

● 判定のコール

レット・・・・・・・・・競技規則第23条に違反した場合又は、第28条第1項各号に該当した場合に、そのサービスをやり直させるコール。この場合、正審は「レット」のコールのあと、サーバー及びレシーバーの準備が確認できた後、「ツーモア（ワンモア）サービス」とコールする。

フットフォールト・・・・競技規則第27条第1項第7号を適用するコール。そのサービスは無効である。※サービスの動作中、足がベースラインを踏んだり、規定された範囲外に足がついた（構えた位置が外）場合は、「フットフォールト」とコールする。

フォールト・・・・・・・競技規則第27条第1項各号を適用したコール。そのサービスは無効である。※サービスの場合、打ち損じても、ネットしても、あるいはパートナーに当たった場合でも、正審は「フォールト」のみコールする。

ダブルフォールト・・・・ファースト及びセカンドサービスがともにフォールトとなった場合のコール。1ポイントを失う。

アウト・・・・・・・・・競技規則第37条第1項第2号を適用した場合（打球がアウトコートにバウンドした場合、または直接そのマッチのアンパイア、審判台もしくは付帯する施設・設備に触れた場合）のコール（失ポイント）。

ダイレクト・・・・・・・（1）競技規則第32条第1項第2号を適用した場合(サービスされたボールが直接レシーバーの、身体または着衣に触れた場合)のコール。レシーバーの失ポイント。
（2）競技規則第37条第1項第9号を適用した場合(相手の打球をアウトコートにおいて、ノーバウンドでラケットで止めた場合)のコール(失ポイント)。ただし、ラケットで打ち返した場合プレーは続けられる。

ノーカウント・・・・・・競技規則第38条を適用するコール。何等かの事故によりそのポイントを採点しないでやり直す。ファーストサービスから始める。

タイム・・・・・・・・・競技規則第39条を適用するコール。何等かの理由によってプレーを中断する場合のコール。

ノータイム・・・・・・・審判規則第10条第3号を適用した場合(タイムの後、プレーを再開する場合)のコール。

ネットタッチ・・・・・・競技規則第37条第1項第5号イに該当した場合（インプレーでラケット、身体または着衣がネットまたはネットポストに触れた場合）のコール（失ポイント）。

タッチ・・・・・・・・・競技規則第37条第1項第5号ウに該当した場合（インプレーでラケット、身体または着衣がそのマッチの審判台またはアンパイアに触れた場合）のコール。（失ポイント）

ネットオーバー・・・・・競技規則第37条第1項第5号アを適用した場合（インプレーでラケット、身体または着衣等が一部でもネットを越えた場合）のコール（失ポイント）。ただし、**打球後の惰性で越えてもインターフェアとならない場合は失ポイントとならない。**

スルー・・・・・・・・・競技規則第37条第1項第1号を適用した場合（打球がネットの破れ目、ネットの下またはネットとネットポストの間を通った場合）のコール（失ポイント）。

ボディタッチ・・・・・・競技規則第37条第1項第4号を適用した場合（インプレーにおいて打球がプレーヤーの身体または着衣に触れた場合）のコール（失ポイント）。

チップ・・・・・・・・・競技規則第37条第1項第8号を適用した場合（打球がラケットのフレームに触れて返球できなかった場合）のコール（失ポイント）。

ツーバウンズ・・・・・・競技規則第37条第1項第3号を適用した場合（２度以上バウンドしたボールを打った場合）のコール（失ポイント）。

ドリブル・・・・・・・・競技規則第27条第1項第4号及び第37条第1項第6号を適用した場合（打球のときボールが２度以上ラケットに当たった場合）のコール。インプレーのときは失ポイント、ただしサービスのときはフォールトとなる。

キャリー・・・・・・・・競技規則第37条第1項第7号を適用した場合（ラケット上でボールが静止した場合のコール（失ポイント）。

● **間違いやすい判定及びコール**

正しい判定及びコール・・・・・・・間違って使われている事例

サービスサイド○○ペア・・・・・・サービスサイド○○組（チーム）

セブンゲームマッチ・・・・・・・・セブンゲームスマッチ・セブンセットマッチ

ツーオール・・・・・・・・・・・・ツーノール

スリーオール・・・・・・・・・・・スリーノール

ゲームチェンジサイズ・・・・・・・ゲームコートチェンジ

ダブルフォールト・・・・・・・・・フォールトアゲイン

イン・・・・・・・・・・・・・・・・セーフ

アウト・・・・・・・・・・・・・・・バックアウト・サイドアウト

チップ・・・・・・・・・・・・・・・タッチ・ワンタッチ・ラケットタッチ

ゲームカウント・・・・・・・・・・セットカウント

デュース・・・・・・・・・・・・・・ジュース・スリーオールデュース

デュースアゲイン・・・・・・・・・アゲインデュース

ゲーム・・・・・・・・・・・・・・・ゲームオーバー

ゲームセット・・・・・・・・・・・・ゲームオーバーアンドセット

ネットオーバー・・・・・・・・・・・オーバーネット

ネットタッチ・・・・・・・・・・・・タッチネット

レッツプレー・・・・・・・・・・・・タイムズアップ

コレクション・・・・・・・・・・・・コネクション

キャリー・・・・・・・・・・・・・・ホールディング

アドバンテージサーバー（レシーバー）・・・・・・サーバー（レシーバー）リード
フォー・サーバー（レシーバー）

ゲームカウントスリーオール
ファイナルゲーム・・・・・・・・・・ファイナルゲーム

●正しい用語の使い方
正しい用語・・・・・・・・・・・・・間違って使われている事例

正審・・・・・・・・・・・・・・・・主審

ペア・・・・・・・・・・・・・・・・組・チーム

ポイントカウント・・・・・・・・・・ボールカウント

ベースライン・・・・・・・・・・・・バックライン

５ゲーム目・・・・・・・・・・・・・５セット目

質問、提訴・・・・・・・・・・・・・抗議

個人戦のペア数・・・・・・・・・・・個人戦の組数・チーム数

（９）スコアシートの記入について

１）正審は、スコアシートに必要事項を正確に記入する。
（コート番号及びプレーヤーの①番号、②所属、③氏名は記録係又は進行係が記入することを原則とし、正審は必ず確認するとともに担当アンパイアの氏名及び開始時刻を必ず記入する）

２）サービスのプレーヤー及びペア（Ｓ）・レシーブのプレーヤー及びペア（Ｒ）が決まればＳ・Ｒの部分を○で囲む。

３）サイドを選択したペアのプレーヤー欄の下部の「サイド」を○で囲む。

４）ポイントの欄には、ポイントを得たのを○、失ったポイントは×を上段左から右に記入する。

５）ゲームを終わるごとにそのゲームで得たポイント数を中央のスコア欄に記入し、そのゲームを得た側の数を○で囲む。

６）マッチ終了後は（スコア）欄に得たゲーム数及び終了時刻を必ず記入し、勝者の側のゲーム

数を○で囲む

7）警告欄に該当プレーヤー・ペア及び監督に出した警告（イエローカードＹ・レッドカードＲ）を○で囲み該当事項欄にその理由を記入する。（遅延行為、ゲーム中のコーチング、判定結果に不服等）

8）タイム欄に身体上の故障によるタイムの発生ごとに５を○で囲む。

9）勝者からサインを勝者サイン欄に記入させる。

(10) 質問に対する対応手順（別紙フローチャートを参照）

1．競技規則第42条（異議の申し立て等の禁止）［解説16］の４により、質問はチームの監督又はそのプレーヤー(ダブルスの場合は一人)のいずれかがアンパイアに申し立てることができる。ただし、ポイントの判定についてはそのポイントに限る。なお、質問に対しては審判規則第14条により判定する。

2．判定に対して、「アウトではないですか」とか「インではないですか」と、アンパイアに質問できる。「跡を確認してください」は質問ではないので受け付ける必要はない。

3．アンパイアは質問の内容を確認の上、再度判定の結果を正審から通告する。

4．「明らかに○○です。プレーを再開してください。」

5．当該通告に関するプレーヤーからの問い合わせは異議とみなし、競技規則第43条及び第44条に規定により処理するものとする。

6．指示に従わない場合には「警告」（イエローカード）を与える。なお、「警告」が3回目に及ぶ場合は「失格」（レッドカード）を与えることとなるので、レフェリーと連絡を取るようにコート主任等に依頼する。

7．質問の内容を確認し、判定に誤りがあれば勇気を持って判定の訂正を行うこととする。

8．ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に、ゲームカウントの誤りについてはそのマッチ内に再判定を行うものとする。

質問に係る規則

1）競技規則

第42条（異議の申立て等の禁止）　プレーヤーはプレーの進行及び判定に関し、アンパイアに対して異議を申し立て、又は結果を不服として故意にプレーを中断してはならない。

2　前項の規定は、プレーヤーがアンパイアに対して質問をすることを妨げるものではない。ただし、質問に対する結果について、前項の規定を適用する。

［解説16］

4　質問又は提訴は個人戦のときはプレーヤー(ダブルスの場合は一名)、団体戦のときはチームの監督又はそのプレーヤー(ダブルスの場合は一名)のいずれかがアンパイアに申し立てることができる。

5　質問に対しては、アンパイアは審判規則第14条により判定する。

第43条（警告）　第17条、第40条または第42条に明らかに違反したと認められる場合、正審はプレーヤー（団体戦の場合は監督等）に対し警告（イエローカード）を与える。

※イエローカードを掲示する場合のコールはないが、イエローカードの該当者及びマッチの関係者の目で確認させる。掲示する場合は、正審が該当者を呼びイエローカードを提示する。

2）審判規則

第14条（再判定）　アンパイアはマッチ中に判定等についてプレーヤーから質問があった場合は、内容を確認の上両者を審判台のところに呼び、再度判定結果を正審から通告する。以後、当該通告に関するプレーヤーからの問い合わせは異議とみなし、競技規則第43条及び44条の規定により処理するものとする。

［解説24］

1．競技規則第42条において異議の申し立て等を禁止したが、プレーヤーから判定に対し質問等があった場合は、内容を確認し、判定に誤りがあれば勇気を持って判定の訂正等を行うこととする。

2．ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に、ゲームカウントの誤りについてはそのマッチ中に訂正を行うものとする。

第15条（判定の誤り）アンパイアの判定が明らかに誤りであると認められる場合、正審はそのポイントに限りこれを訂正することができる。

Ⅱ競技規則（抜粋）の解説

1　プレーヤーの心得【第17条】

(1) 過度の掛け声又は相手を不快にする発声をしないこと。

(2) マッチの開始から終了まで連続的にプレーすること。ただし、サイドのチェンジをする場合及びファイナルゲームに入る場合は、ポイントの終了から１分以内に次のポイントを開始する態勢に入るものとする。

ア　相手がレシーブの構えをしているのにサービスをせず、又は相手がサービスをしようとしているのにレシーブの構えをしないこと。
イ　故意にゲームを長びかせる行為をすること。
ウ　マッチの進行に支障となる状態でパートナー同士の打ち合わせをしたり、又は休憩をすること。
エ　ゲーム終了後、次のゲームに移る構えをしないこと。
オ　ファイナルゲーム中のサイドのチェンジの場合に休息をすること。
カ　ラケットの修理をすること。

(3) アンパイアの指示に従い、プレーすること。

2　マッチ【第18条】

プレーヤーは競技規則に従い、フェアプレーに終始しなければならない。

3　サービス・レシーブ及びサイドのチェンジ【第34条】

(1) サービスとレシーブは、ファイナルゲームを除き、１ゲームを終わるごとに相手方と交替して行い、奇数ゲームを終わるごとにサイドのチェンジを行う。

(2) ファイナルゲームは、２ポイントごとに相手方とサービスのチェンジを行い、最初の2ポイント終了後と以後4ポイント終了ごとにサイドのチェンジを行う。

4　サービスの順序又はサイドの誤り【第35条】

(1) サービスのチェンジ又はサイドのチェンジの誤りが発見された場合は、インプレー前であればそのポイントから、インプレー後であれば次のポイントから訂正する。それまでのポイントは有効とし、誤りに気づいてもインプレーでは中断しない。

(2) 誤りがファーストサービスのフォールトの後に発見された場合は、その時点で正しい順序に訂正し、ファーストサービスから行う。
なお、誤りに気づいてもインプレー中ではプレーを中断しない。中断した場合は、中断した

ペアの失ポイントとする。ただし、サービスのトスが行われる前にレシーバーが気づき、レシーブ態勢に入らず「タイム」と言って中断することは認められる。【第35条〔解説12〕】

5　サービス

(1) サービスは、サービスをするプレーヤーがトス（サービスをしようとして手からボールを放すこと。）をした瞬間に始まり、ボールがコート（アウトコートを含む。）に落ちるまでの間に、そのボールをラケットで打った瞬間に終わるものとする。【第22条第１項】

(2) サービスは、正審のコールがあった後、レシーバーに用意ができていることを確認して、すみやかに行わなければならない。【第23条】
①正審のコール(カウントのコール又はレットもしくはフォールトのコール等)があったこと
②レシーバーの用意ができていることを確認すること。
この２つのうち１つでも欠けていたら、そのサービスは「レット」となる。したがって、正審はサービスのイン・フォールトにかかわらず「レット」とコールしなければならない。【解説７】

(3) サービスは、サイドライン及びセンターマークのそれぞれの仮想延長線の間で、ベースラインの外で行わなければならない。【第25条】

(4) サービスは、サーバーの１人が行い、ネットに向かってセンターマークの右側から始め、右・左交互に対角線上の相手側サービスコート内にボールを打ち込む。【第26条】

(5) ２人のプレーヤーは、同一ゲーム中に２ポイントずつ交替でサービスを行い、同一ゲーム内ではサービスの順序を替えることができない。【第26条】

(6) サービスをしようとしてボールを２個同時にトスするか、またはサービスしようとしてボールを手から放してそれを打つまでの間にもう１個のボールを手から落とした場合には、フォールトとなる。【第27条】

(7) サービスがレットとなった場合は、そのサービスをやり直す。【第28条】
サービスがレットになる場合
①第23条(サービスの時期)の規定に違反するものと正審が判定した場合
②サービスされたボールがネット又はネットポストに触れた後、次のいずれかに該当した場合
ア　そのボールが正しいサービスコートに入った場合
イ　そのボールがコート、アウトコート、審判台又はフェンス等に触れる前に、次のいずれかに該当した場合
1) レシーバーのラケット(手から離れたものを含む)、身体又は着衣に触れた場合
2) レシーバーのラケット(手から離れたものを含む)、身体又は着衣が、ネットもしくはネットポストを超えたり、又は触れたりした場合
3) レシーブをするプレーヤーのパートナーが、サービスされたボールが入るべきサービスコートに触れた場合
③レシーブをするプレーヤーが、レシーブを終わる前に、次のいずれかに該当すると正審が判定した場合
ア　アンパイヤーが判定を誤ったために、プレーに支障が生じた場合
イ　不慮の突発事故、他のコートで使用しているボール又はそのマッチに直接関係ないものの行為によってプレーが妨害された場合
ウ　失ポインになることが双方のプアに同時に発生したとき

(8) (7)③アは、レシーブするプレーヤーが実質的に返球可能な状態と判断できる場合において、アンパイアの判定が、プレーに影響を及ぼした場合に適用する。
例えば、サービスのボールにスピードがあり、アンパイアのフォールトの判定の有無を問わず、レシーブするプレーヤーがレシーブすることができないと認められるような実質時に返球不可能な場合は含まない。この例の場合にアンパイアが誤ってフォールトの判定をしたときは、レットにせず、判定をインに変更してレシーバーの失ポイントとする。実質的に返球可能かどうか、つまり誤った判定によりプレーに支障を生じたかどうかの判断は正審が行う。

【第28条〔解説10の３〕】

(9) ファイナルゲームのサービス及びサイドのチェンジは、次のとおり行うものとする。【第34条】

① 双方の４人のプレーヤーは、２ポイントずつサービスを行う。
② 最初の２ポイントのサービスをするプレーヤーは、それまでの順序に従い、本来サービスの権利を有するペアのいずれかのプレーヤーとする。
③ ３ポイント目及び4ポイント目のサービスは、最初にレシーブを行ったペアのいずれかのプレーヤーが行う。また、最初の２ポイントをサービスしたペアのいずれかのプレーヤーが、３ポイント目の相手方サービスをレシーブする。
④ ５ポイント目及び６ポイント目のサービスは、最初の２ポイントのサービスを行ったペアのもう１人のプレーヤーが行う。
⑤ ７ポイント目及び８ポイント目のサービスは、３ポイント目及び４ポイント目のサービスを行ったペアのもう１人のプレーヤーが行う。
⑥ 以後、②から⑤までの順序に従いサービス及びレシーブを行う。
⑦ サービス及びレシーブの順序は、同一ゲーム中替えることはできない。

(10) パートナーとのサービスの順序の誤りが発見された場合インプレー前であればそのポイントから、インプレー後であれば次のポイントのサービスから訂正する。それまでのポイントは、有効とする。誤りがファーストサービスのフォールトの後に発見された場合は、その時点で正しい順序に訂正し、ファーストサービスから行う。【第35条】

6 レシーブ

(1) レシーバーは、それぞれライトサービスコート又はレフトサービスコートのいずれかでレシーブするものとし、同一ゲーム中は替えることはできない。この規定に違反したことが発見された場合（インターフェア）。ただし、そのポイントに限る。【第31条、第32条】

(2) サービスされたボールが直接レシーバーのラケット、身体又は着衣に触れた場合（ダイレクト）。【第32条】

(3) 有効にサービスされたボールが、ワンバウンド後ツーバウンドする前に、レシーブするプレーヤーのパートナーのラケット、身体又は着衣に触れた場合（インターフェア）。【第32条】

(4) レシーブをするプレーヤーがレシーブを終わる前に、パートナーがそのサービスコートに触れた場合（インターフェア）。【第32条】

(5) ファイナルゲームのときは、最初のレシーブの交替後の3ポイント目は、ペアのうちどちらがレシーブしてもよい。ただし、以降は順序を変えることはできない【第34条・解説11】

7 判 定

(1) インまたはアウトの判定は、ボールの落下点により行う。ラインに触れたものはすべてインとする。【第36条】

(2) ラケット、身体、着衣がネット（仮想延長線も含む）又はネットポストを越えたり触れたりした場合は、失ポイント。ただし、打球の惰性でラケット、身体又は着衣がネットを超えた場合、および相手方アウトコートに触れても明らかな打球妨害(インターフェア)にならない場合を除く。【第37条】

(3) ラケット、帽子又はタオル等が、プレーヤーから離れて直接ネット又はネットポストに触れた場合、ラケットが一旦コートに落ちてから触れた場合は失ポイント。またプレーヤーがコート又はアウトコートに落ちていた帽子、タオル等(ボールは含まない)を手、足、又はラケットで押しやったものが直接ネット又はネットポストに触れた場合、及びそのマッチのアン

パイア又は審判台に触れた場合も、失ポイントとなる。【第37条】

(4) 次のような場合はノーカウントとする。【第38条】
① アンパイアが判定を誤ったためプレーに支障が生じた場合。
② 不慮の突発事故、他のコートで使用しているボール（そのマッチで使用しているボールをそのマッチの直接関係者でない者が投げ入れたものを含む。）または、そのマッチに直接関係のない者の行為によってプレーが妨害された場合。ただし、正審が認めた場合に限る。
③ 失ポイントになることが双方のペアに同時に発生した場合。
④ その他、正審が特に認めた場合。

8 タイム【第39条】

マッチ中、次の場合はタイムをとることができる。
① プレーヤーに突発的な身体上の故障が生じ、プレーの継続ができなくなり、正審がこれを認めた場合。ただし、同一人が１回につき５分以内とし、かつ同一マッチで２回以内とする。マッチ中プレーヤーがトイレの為にタイムを申し出た場合、身体上のタイムとして取り扱うことを原則とする。
② プレーの進行に支障が生じ、正審がこれを認めた場合。
※ストリング切れ修理のためのタイムは認めない。

9 禁止事項【第40条】

(1) プレーヤーは、マッチ中パートナー以外の者から助言及び身体上の手当を受けてはならない。ただし、レフェリーまたは競技責任者が必要と認めた場合を除く。

(2) マッチ中のコーチは、サイドのチェンジ及びファイナルゲームに入る場合のみ、定められた時間内にベンチで行うことが認められる。
※ファイナルゲーム中のサイドチェンジを除く。
※コーチのためにタイムをとることは認められない。

(3) マッチ中助言するものは原則として移動することはできない。

10 異議の申立て等の禁止【第42条】

(1) 第40条　プレーヤーはプレーの進行及び判定に関し、アンパイアに対して異議を申し立て、又は結果を不服として故意にプレーを中断してはならない。

(2) 前項の規定は、プレーヤーがアンパイアに対して質問することを妨げるものではない。ただし、質問に対する結果については、前項の規定を適用する。

〔解説16〕
① プレーヤー（監督・コーチを含む）が異議の申し立てを利用して、マッチの流れをかえようとすることも禁止するものである。
② プレーヤー（監督・コーチを含む）が打球の落下点を確認するため、ネット及びネットの仮想延長戦を超えてはならない。また、自陣の前であっても落下点に近寄ってはならない。
③ プレーヤー（監督・コーチを含む）がボールの落下点の痕跡を消すことを禁止する。もしプレーヤー（監督・コーチを含む）自身が消した場合はインターフェアとみなし失ポイントとする。
④ 質問または提訴は、個人戦のときはプレーヤー(ダブルスの場合は一名)、団体戦のときはチームの監督（コーチを含む）又はそのプレーヤー(ダブルスの場合は一名)のいずれかがアンパイアに申し立てることができる。ただし、ポイントの判定についてはそのポイントに限る。
⑤ 質問に対しては、アンパイアは審判規則第14条により判定する。

(3) アンパイアはマッチ中に判定等についてプレーヤーから質問があった場合は、内容を確認の上、再度判定の結果を正審から通告する。以後、当該通告に関するプレーヤーからの問い合わせは異議とみなし、競技規則第43条及び第44条の規定により処理するものとする。【審判規則第14条】

(4) プレーヤーから判定に対し質問等があった場合は、内容を確認し、判定に誤りがあれば勇気をもって判定の訂正等を行うこととする。【審判規則第14条〔解説24の１〕】

11 警　告【第43条】

第17条（プレーヤーの心得）、第40条（禁止事項）及び第42条（異議の申し立て等の禁止）に明らかに違反したと認められる場合、正審はプレーヤー（団体戦の場合は、部長・監督等）に対し警告（イエローカード）を与える。

12 失　格【第44条】

(1) レフェリーは、主催者の大会要項に示した参加条件に違反していることを発見した場合は、競技責任者と協議し、該当するプレーヤー（団体戦においてはチーム）を失格を宣告する。（レフェリーストップゲームセットディスクオリフィケーション）

(2) 正審は、次の各号に該当する場合には、レフェリー及び競技責任者と協議の上プレーヤー（団体戦においてはチーム）を失格とし相手方の勝ちを宣告する。
（レフェリーストップゲームセットディスクオリフィケーション）【第44条第２項】

① そのマッチへ出場の通告を受けたプレーヤーがコートに出場しない場合。
② 団体戦においてあらかじめ提出されたオーダー順に出場しない場合。
③ １マッチ中に、警告が３回目におよんだ場合。（レッドカード）

〔解説17〕

1　そのマッチへ出場の通告を受けたプレーヤーがコートに出場しない場合、アンパイアがコートに到着後、５分経過で警告１回とし３回をもって失格とする（15分間経過で失格）。なお、警告を受けたプレーヤーが失格する前（警告２回まで）に出場した場合は、それまでに与えられた警告は、そのマッチ中有効となる。したがって、マッチ中に累積した警告が３回となった時点で失格となる。ただし、特別な理由で申告された場合は、その内容を審査し、レフェリー又は競技責任者が決定する。

2　団体戦でマッチ開始後（インプレー）にオーダー通りに出場していないことが判明した時点で、第44条第2項第2号を適用し、そのチームを失格とする。ただし、団体戦が終了した後に判明した場合は、この規定は適用しない。

3　団体戦におけるマッチで第44条第2項第3号に該当した場合、当該プレーヤーが所属するチームが失格となる。この場合、最終対戦ですでに団体戦の勝敗が決定していた場合でも適用され、相手チームの勝ちを宣告する。

13 ヒートルール【第46条】

会場での暑さ指数（ＷＢＧＴ）が原則31以上となり、ファイナルゲームとなった場合、ファイナルゲームに入る前に3分間のテニスコート内での休憩を許可する。

(1) 団体戦の場合、最初の1分間は助言を受けることはできる。

(2) 暑さ指数の測定にあたっては、大会責任者等がコートサイドの風通しの良い場所を決定し、1時間～2時間の間隔で実施する。

(3) 会場で正確な暑さ指数が測れない場合は、環境省が提供する「暑さ指数（ＷＢＧＴ）予測値等電子情報サービス」の会場地に最も近い地点でのＷＢＧＴ値を参考とする。

14 マッチの中止と再開【第47条】

(1) 天候その他の事情でマッチがいったん中止又は延期となった場合は、その後のポイントから引き続き再開することを原則とする。

(2) コートを変更したり、又は後日再開される場合のサイドは、そのマッチでサイドを選択したペアが選ぶものとする。

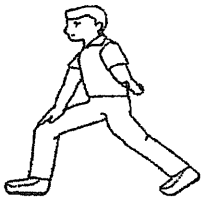
15 退場又は注意の喚起 【審判規則第19条】

(1) 正審は、マッチの進行に支障があると認められる行為等に対しては、関係者(プレーヤー、部長、監督、コーチ、当該チーム等の総称)に注意を喚起することができる。

(2) そのマッチが行われているコート外(スタンドや通路)の応援団等は、「関係者」に含まれ、注意の対象となるが、第20条の警告の対象とはならない。必要である場合は、大会委員長に連絡し対処を依頼する。

(3) 大会委員長は、大会運営上支障があると認められる場合は、関係者に注意を喚起しあるいは退場させることができる。大会委員長から退場を宣告された者は、当該大会に関する一切の権能を主張することはできない。

【副審のサイン】



(ア) 副審の構えの姿勢
片足（レシーブ側）を前に出して腰を低くして構える。
足を出した側の手は、膝の上に軽く置く。
足を引いている側の手は、腰の後ろに掌を外にして置く。
両肩はサイドラインンと平行になるようにする。



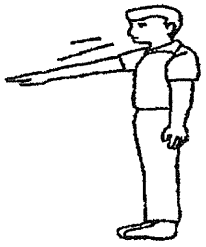
(イ) フォールト
構えた姿勢のまま**落下点に注目**し、指を伸ばして片手を挙げる。
(区画線の判定区分による、ネットにかかったものは除く。)



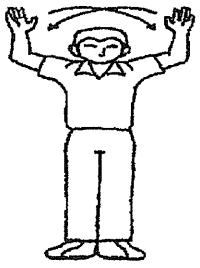
(ウ) レット（コールもする）
直立して、足を出した側の手をまっすぐ上に挙げるとともに、
第１サービスにおいては指を２本、
第２サービスにおいては指を１本立てて、
「レット」とコールする。



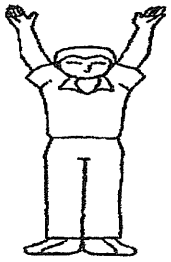
(エ) アウト
ボールの**落下点に正対して注目**し、指を伸ばし外側の手を上に
まっすぐ挙げる。
（この場合、**掌を内側に向ける。**）



(オ) その他の判定区分（コールもする）
片手で失ポイントに該当することを行った**プレーヤーを指差して、**
当該失ポイントに該当するコールをする。
（該当するコート側の手で行う。）

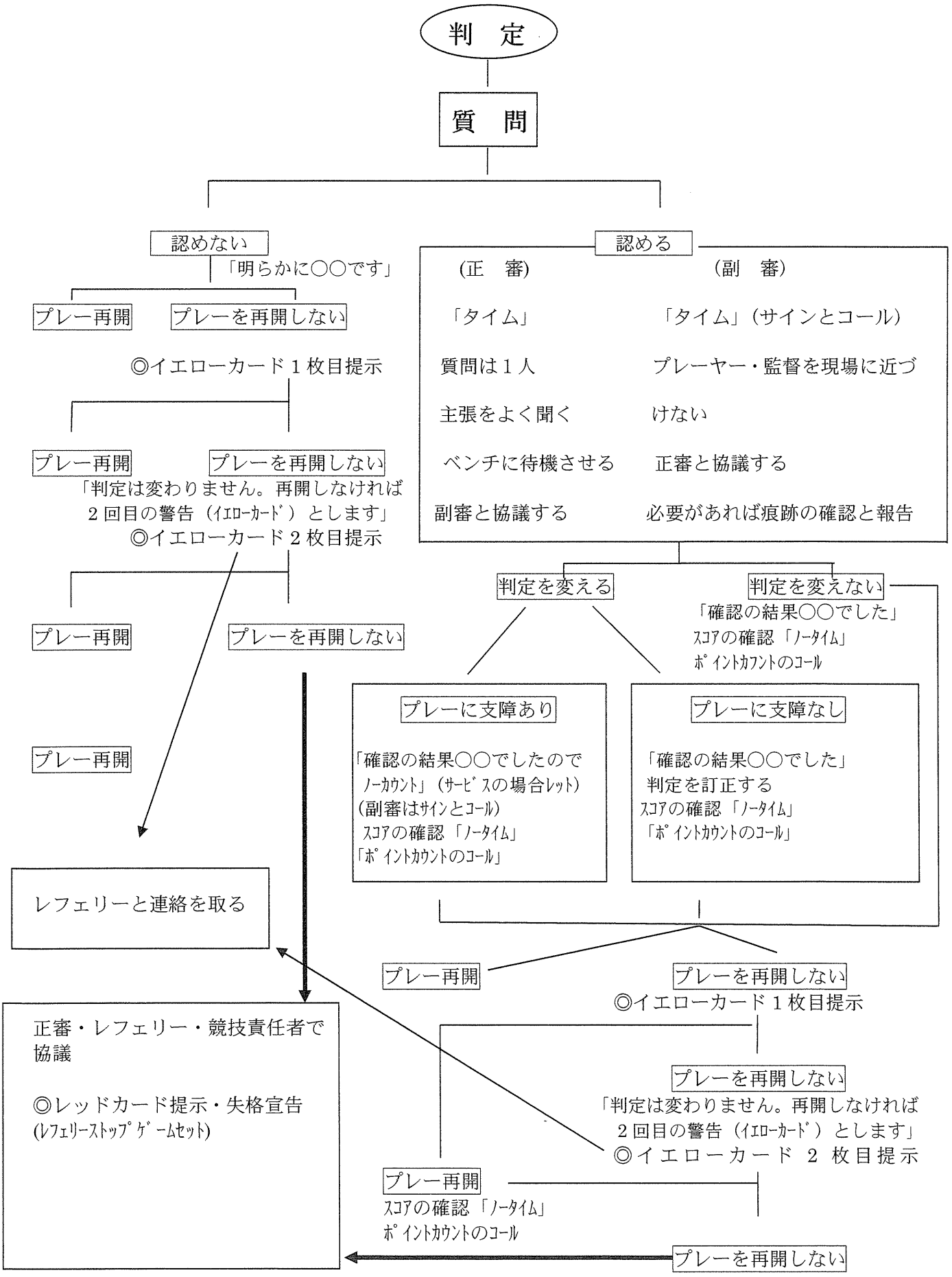


(カ) ノーカウント（コールもする）
両手を顔の前で交錯するように振り、「ノーカウント」とコールする。



(キ) タイム（コールもする）
掌を正審の方に向けて両手を挙げ、「タイム」とコールする。

質問に対する対応手順フローチャート



審　判　員　指　摘　事　項　票

種目	□成年男子　□成年女子　□少年男子　□少年女子			コート
対戦	回戦	No.	対	
		チーム名		
審判	正審：	副審：	コート主任：	

【正審】	
マッチ開始前、終了時の審判員の立つ位置やあいさつが不適切。	
「集合」の合図とコールがない。	
プレーボールの前に、サイドおよび選手の紹介がない。	
第１サービスがネットにかかり入らなかったときに、「フォールト」のコールがない。	
フットフォールトが取れない。	
ポイントカウント等をコールするタイミングが悪い。	
副審のサイン（判定区分の尊重）を見てコールしてない。	
チェンジサイズ時の時間のチェックができてない。	
「レッツプレー」のコール（副審への指示指示を含む）ができない。	
ボールの落下点をよく見極めないでコールしている。	
その他の判定において、該当するプレーヤーを指してのコールがない。	
イエローカードをタイミングよく出せない。	
「タイム」、「ノータイム」のコールができない。	
得点板の表示に注意を払ってない	
得点票を見ながら下を向いてコールしている。	
審判姿勢が悪い。	
質問に対する対応が拙い。	
正しい審判用語が使えない。	
声が小さくて明確なコールができない。	
採点票（開始終了時間・サイド・警告・タイム・スコア・勝者サイン等）に不備がある。	
【副審】	
マッチ開始前、終了時の審判員の立つ位置やあいさつが不適切。	
レディ前の待機位置が不適切。	
サービス判定時の姿勢が悪い。	
サービス判定時の位置（クロス・逆クロスの場合の立つ位置）が不適切。	
サービス時にサーバーを見ていて、レシーバーの「インターフェア」が取れない。	
レットの場合に直立してサインとともにコールができない。	
第１サービスがネットにかかって入らなかったときにフォールトのサインをする。	
サービス判定時にインのボールにサインしている。	
移動時の駆け足ができない。	
ボールの落下点をよく見極めないで判定している。	
その他の判定において、該当するプレーヤーを指してのコールがない。	
判定のタイミングが悪い。	
区画線による判定区分が分かってない。	
待機中、ラリーの姿勢が悪い。（後ろの手を組む・よそ見等）	
正確なサインやコールができない。（サインの手が反対・レットやタイムのコールとサイン等）	
正しい審判用語が使えない。	
声が小さくて明確なコールができない。	
質問に対する対応が拙い。	
得点板の表示に注意を払ってない	
【備考】	